

日本の文豪

「文豪」、その言葉がもう難しそう！
けれど…知れば知るほど面白い、
日本の文豪の沼へようこそ。

はと時計 10月号
松蔭中高図書館 2023年10月5日発行
library@shoin-jhs.ac.jp 担当:片山



『文豪と暮らし
～彼らが愛した物・食・場所～』
開発社編 創藝社 2017

芥川龍之介の死を見守った聖書、尾崎紅葉が名づけた最中など、文豪が愛した物・食・場所をエピソードとともに紹介。

『文豪の装丁』
NHK「美の壺」制作班編
日本放送出版協会 2008

表紙、挿絵、こだわりの素材、工夫を凝らした文字組み…読むだけでなく、見ても楽しい、粋な装飾が施された名著。その「装丁」の魅力を紹介。

『文豪の凄い語彙力』
山口謠司著 さくら舎 2018
横溝正史の「警戒」、梶井基次郎の「寛解」…言葉を探し、選び、創り出して文章を紡ぎ出す文豪たちの洗練された語彙を読み解いていきます。言いたいことにぴったりな言葉が見つかるかも。

『文豪ナンバーワン決定戦』
福田和也監修 宝島社 2018

日本の文豪たちを、面白さ、美文、読みやすさといった様々なランキングで紹介。写真付きで紹介される文豪のページには、こんな人だったのか！という驚きがいっぱい。

『教科書では教えてくれない日本文学のススメ』
関根尚著 学研教育出版 2015

新入社員の本田凜は、「文豪荘」の家賃の取り立てを任されることに！ところがそこは、文豪の霊たちが住むアパートだった。甘い物がやめられない夏目漱石、無類の犬好き川端康成…楽しく読みながら文豪を知るコミックエッセイ。

『140字の文豪たち』
川島幸希著 秀明大学出版会 2020

元初版本コレクターの著者のツイートをまとめた本。140字で語られる作家のエピソードや、あまり知られていない作家の言葉には、気になる内容が盛りだくさん。

『文豪たちの友情』
石井千湖著 新潮文庫 2021

「私の恋人」と書くほどの親友室生犀星と萩原朔太郎。ケンカばかり、対照的な性格なのに同居？国木田独歩と田山花袋。文豪たちの様々な人間関係を知る一冊。

『作家たちの17歳』
千葉俊二著
岩波ジュニア新書 2022

日本の文豪たちが17歳のころ、どのようなことがあって、何を選択し、その後の人生にどんな影響を与えたのか。まだ「文豪」じゃなかったころの彼らを見てみよう。

『文豪の死に様』
門賀美央子著 誠文堂新光社 2020

洋上にて病死した元祖意識高い系二葉亭四迷、孤独死の先駆者永井荷風…文豪たちの「死」を起点に、彼らの生き様や作品をより深く見ていきます。



『作家の猫』
コロナ・ブックス編集部編
平凡社 2006

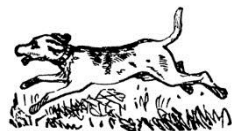
室生犀星の猫ジイノは、火鉢に手をかけ暖をとる。幸田文の最後の飼い猫は、捨て猫だった阪急。など、作家たちと日々をともに過ごした猫たちのアルバム。『作家の犬』もあります。



『文豪たちが書いた
「犬」の名作短編集』
彩図文芸部編纂 彩図社 2018

飼っている犬の話、犬が苦手な飼い主の話から、悲しい犬の話、ほっこりする犬の話まで、文豪たちが描いた犬にまつわる短編小説やエッセイを集めた一冊。

「猫」もあります。



猫と、犬と文豪

『吾輩は猫である(上・下)』
夏目漱石作 佐野洋子絵
講談社 青い鳥文庫 2017

中学の英語教師 珍野苦沙弥先生の家で飼われることになった吾輩。吾輩は日々、先生の家族や友人、近所の人たちに起こることを観察して…。夏目漱石のデビュー作。モデルとなった猫については下巻解説で！

『江戸川乱歩傑作選』より
「二銭銅貨」
江戸川乱歩著 新潮文庫 2000

とある工場で社員の給料が盗まれた。犯人は捕まったが、盗まれた金は見つかっていない。事件に関心を持っていた私と松村は、たまたま手にした二銭銅貨の妙な点に気がついて…。今からちょうど100年前に書かれた作品！

『山月記』
中島敦著 ねこ助絵 立東舎 2020

李徴は若くして科挙に合格するほど優秀だったが、官を退き、詩家として名を残そうと詩作に耽った。しかし文名は揚がらず、生活は苦しくなるので、再び地方官吏の職に就くが…。中島敦のデビュー作を、イラスト画で楽しめます。

『人間失格 グッド・バイ 他一篇』より
「グッド・バイ」
太宰治著 岩波文庫 1988

戦後三年を経て、雑誌「オベリスク」編集長の田島は、愛人らとの関係などを全て絶とうとする。すごい美人に女房役になってもらえば、女性たちと別れられると考えて…。1948年から新聞に連載された太宰治、未完の遺作。

合わせて読みたい

『夏目漱石、読んじゃえば？』
奥泉光著 香日ゆら漫画・イラスト
河出書房新社 14歳の世渡り術 2015

漱石好きの作家 奥泉光が、漱石作品の楽しみ方を提案してくれます。小説の楽しみ方は自分で作れる?! 漱石の作品がわからない! 『吾輩は猫である』は何が面白いの?と思う人におすすめ。

『黄金虫・アッシャー家の崩壊 他九篇』より
「黄金虫」
ポオ作 岩波文庫 2006

僕の友人ルグランドが、偶然にも手に入れた羊皮紙には謎の暗号が?! 筆名「江戸川乱歩」の由来となった作家エドガー・アラン・ポオ(ポー)。暗号を用いた最初の推理小説ともいわれる作品。

『新釈 走れメロス 他四篇』より「山月記」
森見登美彦著 祥伝社文庫 2009

斎藤秀太郎は大学生活を、ただ文章を書くことだけに情熱を注ぎ過ごしたが、文名は揚がらず、生活は苦しくなる。ある深夜、闇の中へと駆け出した彼は…。京都の街を舞台に名作たちがよみがえる。

『バイバイ、ブラックバード』
伊坂幸太郎著 双葉文庫 2013

〈あのバス〉で連れていかれる前に、恋人たちに別れの挨拶をさせてほしいと望む星野一彦。大柄で粗暴な蘭美と結婚するからと言って、女性たちの元を訪れるが…。太宰治「グッド・バイ」へのオマージュ作品。





脳科学者 茂木健一郎先生が「出逢う、つながる、互いに進化する、未来の教育」をテーマに

2023年10月21日（土）

14：00～16：00

本校 講堂で講演されます。

本校図書館には55冊の著書があり、コーナーを作っています。

参加無料 申込要。

（校外の方もOK）

申込みはこちら。→

事前に彼の本を読んでから参加してみませんか？



新着図書

『その気持ち、なんて言う？ プロに学ぶ感情の伝え方』NHK「言葉にできない、そんな夜。」制作班 祥伝社新書 2023

やめてくれ、あたしから背骨を奪わないでくれ。推しがいなくなったら あたしは本当に、生きていけなくなる。（宇佐美りん）



推し、嫉妬、後悔、恋愛…さまざまなことがらをどう伝えるか、プロのヴィヴィッドな表現を楽しみましょう！

11月4日（土）まで 全校読書運動の優秀作品を展示中。



11月6日から11日まで 宗教週間、

チャリティブックセールを実施します。1冊10円以上のご寄付をお願いいたします。

『1日3分でやさしい心が育つ 聖書のことば』

佐藤優監修 講談社 2023

聖書の言葉をかわいらしい羊と狼が漫才のようにイラストで登場して微笑ましく教えてください。「剣を取るものは皆、剣で滅びる」無理やりいうことを聞かせてもダメというお話、いろいろなところで身に染みるエピソードです。24の聖書の言葉、実践はむずかしくても易しく理解するたすけになると思います。



『シンデレラはどこへ行ったのか』廣野由美子著 岩波新書 2023

映画『赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。』が人気ですが、シンデレラは女性が他者に守られ、受動的に難問を解決する物語。「男性が依存状態から自立へと訓練されるのに、女性はそこへ入っていくよう訓練される」シンデレラ・コンプレックス。

対照的に恵まれない環境に生まれ、美人でなくても自分の能力や人格的な強みで自己実現しながら自分と対等な男性と互いに認め合い、ライフワークを持ち続ける『ジェイン・エア』や『赤毛のアン』。

物語は時代に沿って変わります。ディズニーの『シンデレラ』『眠れる森の美女』からの『マレフィセント』、そして『アナと雪の女王』はそれぞれ女性が主体的に人生を切り開く様子が分析されます。そういう意味で映画『赤ずきん、旅の途中で～』は、最新の女性のスタイルかも。誰でもジェイン・エアになれる！

『関東大震災と流言 水島爾保布 発禁版体験記を読む』前田恭二編著 岩波ブックレット1083 2023

いまから100年前、関東大震災の混乱の中、何の罪もない朝鮮人が何千人も虐殺されました。あちこちから迫る火事への対応、飛び交うデマ、目を覆うような暴力事件の数々。旧仮名遣いで少し読みにくいのですが、検閲がどういう部分を問題視していたか、がわかります。朝鮮の人たちが大震災前にどれほどひどい目にあってきたか、著者の息子が証言している部分、そして車屋のカツさんの鋭い指摘、読んでおいてほしい。

『スイッチ 悪意の実験』潮谷駿 著 講談社文庫 2022

一日1万のバイトだと言われ、6人が大学からパン屋に連れて行かれる。感じのいいお店でパンを食べ、大学に戻る。そしてこれから1ヶ月のあいだ、スイッチを押したらあのパン屋が破滅する。誰が押したかはお互いにわからない。1ヶ月のあいだ、毎日1万手当てがでて、その後インタビューの時に押したか押さなかったか理由を答えてもらう。その時にボーナス100万。押しなくても押さなくてももらえる。自分と関係ない人を不幸にするスイッチを押す人間がいるのかという悪意の実験。スイッチは実際に思わぬ方法で押されるのだが…。第63回メフィスト賞受賞作。悪意も救いもある結末です。



『自分を見つめ心を整える 祈りの絶景100』

イースト・プレス編集部 イーストプレス 2023



世界中のむかしから崇められてきた自然や造形物の写真集です。荘厳、不思議、壮観、とにかく魅惑的な美の写真集、これを見ているだけで世界旅行をした気になれそうな、死ぬまでに行こうと思う場所を決めたいという気にさせてくれる本です。

『源氏物語入門』高木和子著 岩波ジュニア新書 2023

来年の大河ドラマの主演が紫式部なのでちょっと注目。源氏物語は恋愛しかないといっているくらい、恋愛の見本市です。それぞれ魅力的な女性を紹介していますが、「笑いものになる女・ならない女」、「女は一生独身がお気楽なの？」「密通する女の気持ち」など特に面白い。私の推しは花散里。

